



## 第3章 夢・感動を共有するチャレンジスポーツ

～「スポーツどころ」を高める～

### 目標

ジュニア期のアスリート発掘・育成システムを確立するとともに、京都府が誇るトップアスリートや指導者の活躍を支援し、府民と夢や感動を共有します。

トップアスリートが活躍することは、府民に明るい話題を提供し、夢や感動、勇気を与え、自信と誇り、郷土愛をはぐくみます。

そのため、優れた素質を持つジュニア期の選手を早期に発掘し、組織的・計画的にトップレベルの選手に育成するとともに、京都府に拠点を置いて活躍するアスリートや指導者を支える環境を整備します。

そして、オリンピック・パラリンピックをはじめ国際大会や全国大会において好成績を収め、府民と夢や感動を共有するとともに、その経験を様々な活動を通じて府民に伝えていくことで、支えてもらった社会に貢献し、地域の活性化を図るという好循環をつくります。

### ▶ 具体的目標

- 1 京都府ゆかりの選手が、オリンピック・パラリンピックや世界選手権をはじめとする国際大会において、毎年メダルを獲得することを目指す。
- 2 国民体育大会において、京都府選手団が男女総合成績常時入賞（8位以内）を果たす。
- 3 公認スポーツ指導者※注17を10年間で1,000名の増員を図るとともに、各団体に登録された全ての指導者が年1回以上資質向上のため研修会を受講する。

### ▶ 府民が持ちたい「スポーツどころ」

人々は、日々の生活の中で「よしっ!」「さあ!」「やってみよう!」という前向きで積極的な気持ちを持って行動しています。その前向きな「心のありよう」が、誰もが持っている「スポーツどころ」です。

### ● チャレンジスポーツで「スポーツどころ」を高める

本来、スポーツとは競い、克服し、新たな自分を発見するためのものです。不断の努力を積み重ね、人間の可能性の極限を追求するとともに、他者を尊重し、人々に共感を得るプレイにチャレンジすることで「スポーツどころ」を高めることができます。

※注17 公認スポーツ指導者：公益財団法人日本体育協会及び加盟団体等が制定した公認スポーツ指導者制度に基づき、指導方法など規定されたカリキュラムを受け検定試験に合格し、認定される指導者

## I 未来に羽ばたくジュニアアスリートの育成

全国や世界の檜舞台で活躍できるトップアスリートを早い段階から発掘・育成・強化していくため、競技団体や地域等との連携を図り、ジュニア期からトップレベルに至るまで体系的かつ戦略的なシステムを構築します。

### 1 京の子どもダイヤモンドプロジェクトの充実とプログラムの普及

- (1) 京の子どもダイヤモンドプロジェクトに基づくジュニアアスリート育成システムの構築

運動やスポーツを始めるジュニア期の指導について、健全な成長を期待するだけでなく、障害予防や燃え尽き症候群を防止する上においても、指導理念を明確にし、将来を見据えてジュニア選手を育成する必要があります。

そのため、スポーツ医・科学や栄養、トレーニング等の指導者が連携しながら育成プログラムを進めているダイヤモンドプロジェクトの手法を確立し、ジュニアアスリート育成システムの構築を進めます。

- (2) 京の子どもダイヤモンドプロジェクトとのシナジー効果（相乗効果）による各競技団体におけるジュニアアスリートの育成

京の子どもダイヤモンドプロジェクトの育成プログラムを各競技団体と共有することにより、ジュニア世代からスポーツに親しむ機会を広めるとともに、ジュニアアスリートの一層の育成を推進します。

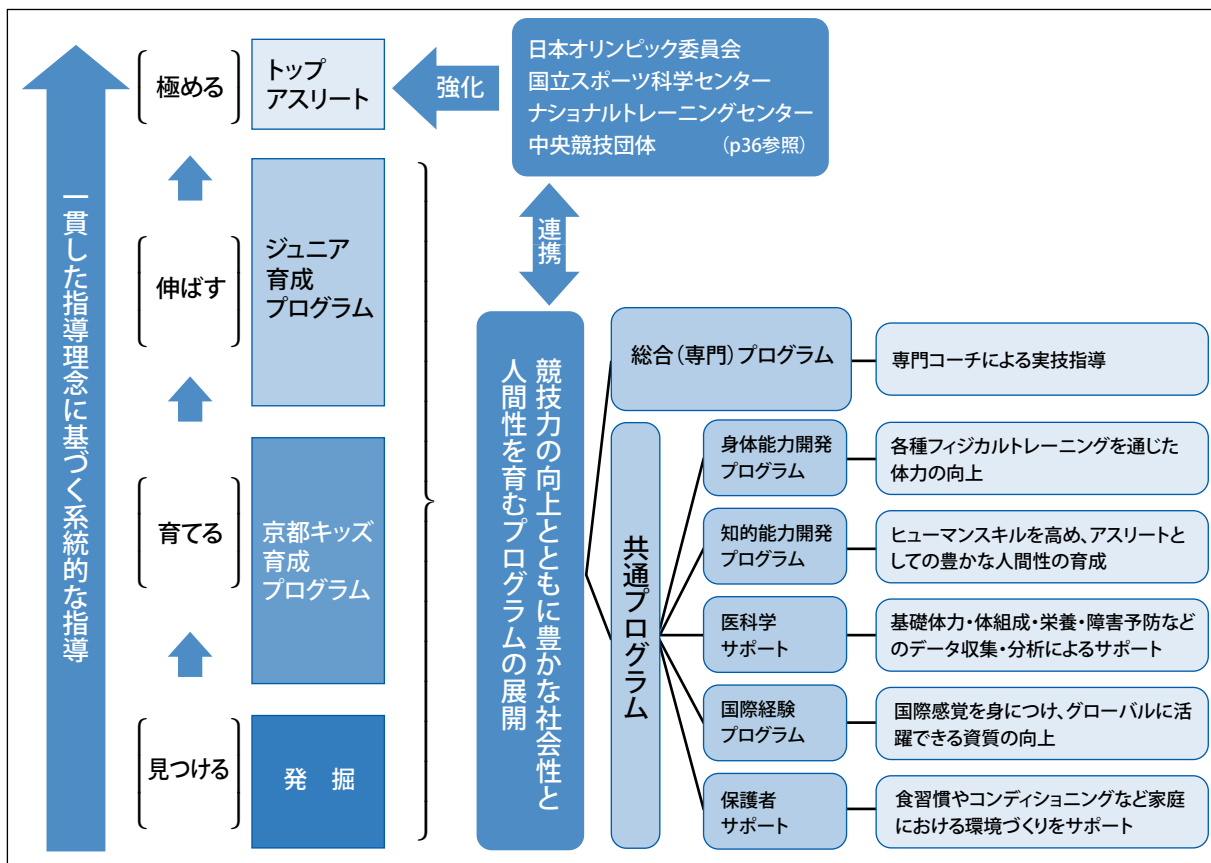
- (3) 2020年東京オリンピック・パラリンピックで活躍できるジュニアアスリートの育成  
京の子どもダイヤモンドプロジェクトに加え、2020年東京オリンピック・パラリンピックで活躍の適齢期を迎えるジュニアアスリートの発掘・育成を推進します。

また、その手法を継続して以降のジュニア育成にも活かします。

- (4) ジュニア期における体づくりのための望ましい食習慣の実践研究及びその普及推進

ジュニアアスリートにとって食事は、成長期の体づくり、けがの予防、技術や体力の向上を図るとともに、健全な発育を促すためにも重要です。望ましい食習慣を身に付けさせるために、大学やスポーツ栄養士との連携による実践研究を行い、普及推進を行っていきます。

ジュニアアスリート育成システム(京の子どもダイヤモンドプロジェクト)の構築



2 地域に根ざし、高い競技力を有する高校運動部におけるジュニアアスリートの発掘と育成

(1) 開放型地域スポーツクラブ等の手法を活かした、小学校・中学校期のジュニアアスリートの競技活動の支援（小中高の連携による一貫指導体制づくりの推進）

高等学校と小学校・中学校との連携により、開放型地域スポーツクラブや高い競技力を有するアスリートを輩出してきた高等学校の運動部活動に小学生や中学生が継続的に参加できる体制を整え、トップアスリートの育成に努めます。

(2) 地域にある高等学校の優れた指導力を有する指導者による小学校・中学校のスポーツ活動の支援（小中高の連携による地域に根ざした指導体制づくりの推進）

小学校・中学校期の指導体制を充実するため、小学校及び中学校へ高等学校の指導者を派遣したり、小中高合同の運動部活動指導者研修会等を実施するなど連携を深めることにより、地域に根ざしたジュニア世代のスポーツ活動の活性化を図ります。

## II 京都府を拠点に活躍するトップアスリートの育成

トップアスリートが京都府を拠点に活動し、オリンピック・パラリンピックをはじめとする国際大会や全国大会で活躍できるよう、スポーツ医・科学的サポートを充実させるとともに、競技団体や関係機関との密接な連携を図り、トップアスリートの活動を支える環境づくりを推進します。

また、府民がトップアスリートを支え応援していく気運の醸成を図ります。

### 1 スポーツ医・科学を十分に活用した競技力向上方策の充実

- (1) マルチサポート（スポーツ医・科学、情報分野等の多角的高度な支援）の戦略的・継続的な実施

トップアスリートの育成・競技力の向上のためには、質の高いトレーニング効果を引き出す支援が必要です。身体の発達段階や技術の習得は、選手個々で課題が異なります。それぞれの選手に必要なスポーツ医・科学、情報分析、映像解析等の多角的高度な支援、ドーピング防止教育等のサポート体制の構築を目指します。

- (2) スポーツ栄養学に基づいた競技種目別栄養管理体制の確立

アスリートが、技術や体力の向上を図るためには、スポーツ栄養学に基づいた個々の競技種目やトレーニングの目的、個人の状態に合わせた栄養管理が必要です。大学やスポーツ栄養士との連携を図り、栄養管理体制の確立に努めます。

### 2 地域・企業・大学等が核となるトップアスリート支援体制の確立

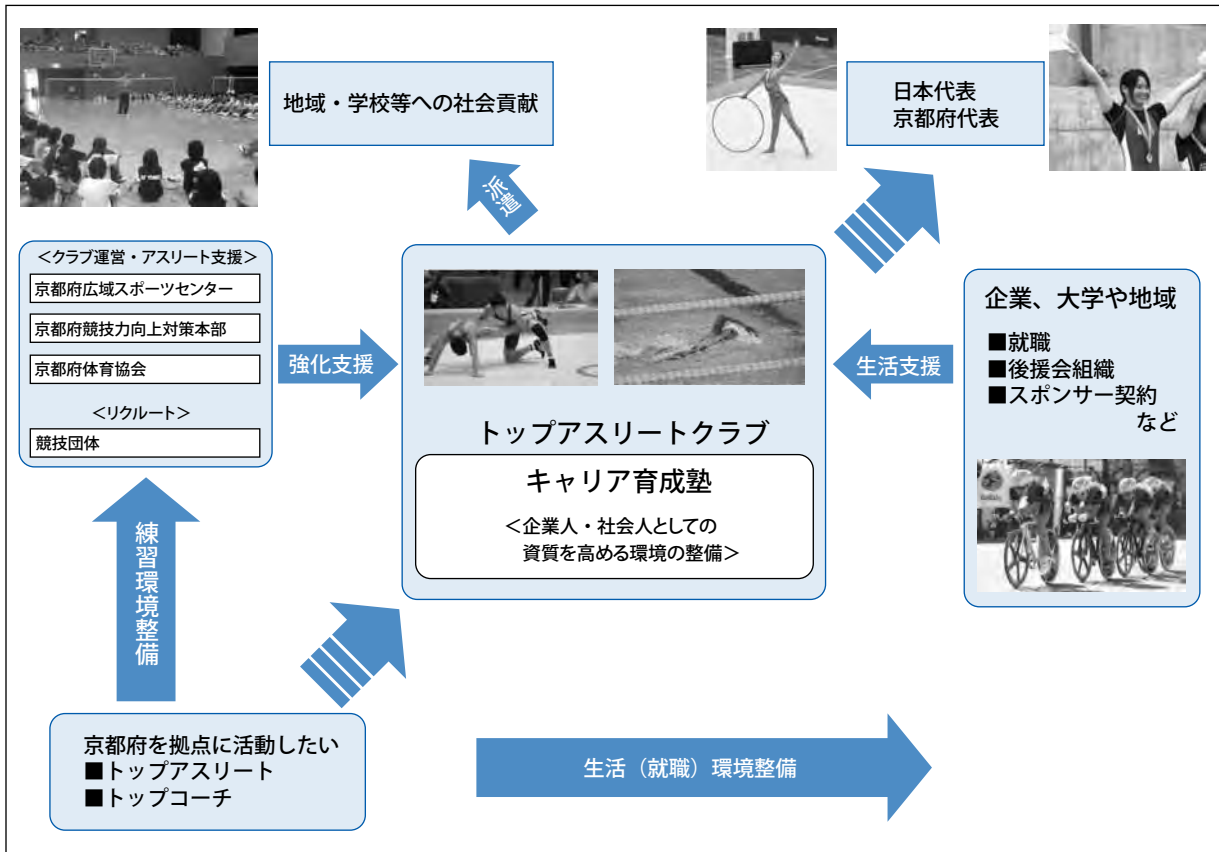
- (1) 企業・大学と連携したトップアスリートの経済的支援、就労支援、キャリア教育等を行うことのできる組織づくりの推進

今日の社会情勢では、企業が運動部を持ち、アスリートの活動を支えることが困難な状況となってきており、アスリートが競技生活に専念し活躍できる環境をつくることが喫緊の課題となっています。

そのため、企業や大学等と連携し、アスリートに対する就労支援や現役を退いた後も社会の一員として充実した生活を送るためのキャリア教育等ができる組織づくりを推進します。

また、これらのアスリートが集うスポーツクラブの創設を目指します。

トップアスリートクラブの概要



(2) 地域のスポーツ関係団体、愛好者等による「わがまちのトップアスリート」支援体制の構築

トップアスリートを地域ぐるみで支え、応援する体制を構築することは、地域の絆を強め、地域コミュニティの活性化につながります。地域のスポーツ関係団体や民間団体とトップアスリートの連携によるスポーツイベント等を開催し、「わがまちのトップアスリート」を支える体制づくりを進めます。

(3) 京都府内にあるプロスポーツ団体の優れたスポーツ経営力や運営力を活かしたトップアスリート支援体制の構築

自立経営を行なっているプロスポーツ団体は、スポーツ活動を通じて社会貢献を行い、魅力ある事業・サービスを提供する組織として、京都府のスポーツ推進に欠かせない存在となっています。トップアスリートの強化についても、このようなプロスポーツ団体の経営力や運営力を活かし、民間企業や府民からの支援を受けるシステムの構築を目指します。

### 3 障害者トップアスリートの競技力向上方策の充実

#### (1) 障害者トップアスリートの育成

市町村や関係団体等との連携により、府内のスポーツ施設等における障害者スポーツのニーズに応じた利用方法の検討や様々なスポーツプログラム等の情報提供を推進し、障害者のスポーツ参加の機会と競技人口の拡大を図ります。

また、競技会の誘致や指導者の育成・資質向上を図り、競技に対する意欲や関心を高めトップアスリートの育成を進めます。

#### (2) 高度な競技技術・トレーニング手法の共有化

競技性の高いスポーツに取り組むアスリートには、より高度な競技技術の習得や効果的なトレーニングが必要です。障害者スポーツのみならず、他の競技や種目の枠を越え、それぞれで培ってきた強化の手法を共有することは、効果的なトレーニングや指導方法の開発にも繋がり大変有効です。

そのため、府内の関係団体との連携を一層推進し、これらの情報の共有化を図ります。



### Ⅲ 社会性豊かなアスリートの育成に向けた指導者の育成と指導体制の構築

2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定し、その成功に向けての大きな要因となる我が国のスポーツ指導者の資質向上は、国内外から注目を浴びています。京都府においてもスポーツ指導における暴力が問題になる中、勝敗のみにこだわるだけでなく、スポーツ本来が持つ<sup>たの</sup>愉しさを味わせるとともに、より高度な専門的知識と高い指導力を持つ指導者の養成が必要です。

#### 1 優れた指導力を持った指導者の育成・確保

- (1) 京都府教員採用のスペシャリスト特別選考※注18によるアスリートの採用等、高い競技力と人間的魅力を有したトップコーチの京都府招へいの推進

国際大会出場経験のある高い競技力とともに、指導者としてもふさわしいパーソナリティを有するアスリートを京都府教員として採用するとともに、全国から積極的にトップコーチを招へいし、中学校及び高等学校に配置することで運動部活動における中高連携や地域スポーツの拠点づくりを図り、競技力の向上に努めます。

- (2) コーチング方法論やスポーツ医・科学などを多角的に学ぶ研修の充実

日本のトップコーチ、スポーツドクター、研究者等を講師とした研修会の実施や中学校、高等学校及び各スポーツ団体等の指導者同士の情報交換会などを通じて、将来のトップアスリートを指導する知識や技術を多角的に学ぶことができる研修の充実を図ります。

- (3) 技術指導だけでなく、キャリア教育を含めアスリートの社会性、人間性を伸ばす指導者の育成

中学校、高等学校、大学及び各スポーツ団体等の指導者がアスリートに対し、技術指導だけでなく、社会性や人間性を伸ばす指導や現役引退後も社会人として活躍するためのキャリア教育も行える力量を身に付けるための支援を充実します。

※注18 スペシャリスト特別選考：選手として、国際的規模の競技会に日本代表として出場した者又は日本選手権大会若しくはこれに準ずる全国的規模の大会において優秀な成績を収めた選手を採用する制度

- (4) 女性指導者の活動をサポートする体制や環境づくりの推進  
近年、日本のスポーツ界において女性の活躍は目覚ましいものがありますが、女性指導者のライフサイクル等に対応する環境は必ずしも十分ではありません。  
そのため、府内女性指導者と日本のトップで活躍する女性指導者との交流や研修会等を実施することにより、優れた女性指導者を育成するとともに、各種大会において女性監督やコーチを積極的に登用することを奨励し、女性指導者の活躍の場の拡大を図ります。
- (5) 障害者スポーツの指導者の育成・確保  
公益財団法人日本障害者スポーツ協会指導者養成制度における上級スポーツ指導員育成のため、中級及び初級スポーツ指導員に対して活動場を提供します。  
また、障害者スポーツコーチ、トレーナー等の養成を進め、活動場所に派遣することにより障害者スポーツの活性化を図ります。
- (6) 指導実績の優れた指導者の認定制度（エグゼクティブコーチ制度）の制定  
指導実績の優れた指導者をエグゼクティブコーチ（優秀コーチ）として認定し、指導者研修会や活動場所にアドバイザーとして派遣することにより、その指導方法を共有し、指導者の資質向上に努めます。

## 2 京都府における競技団体等の組織体制の充実と国との連携

- (1) 競技団体の組織運営、事業運営、競技力向上体制等におけるガバナンスの強化  
競技団体はもとより、学校体育団体・スポーツ団体は、府民にスポーツを提供する立場にあるため、府民の理解や社会とのつながりを大切にして、透明性の高い組織運営体制を構築することが求められます。  
そのため、国や中央の関係団体が策定するガイドラインに基づき、府内の体育・スポーツ関係団体におけるガバナンスの強化に向けた取組を進めます。
- (2) 京都府内の競技団体と全国の上部団体、国立スポーツ科学センター（JISS）・ナショナルトレーニングセンター（NTC）等との連携促進  
競技力向上のためには、競技団体の強化体制の確立はもとより、国や中央競技団体の動向及び国際組織が行うルール改正や強化に向けた新しい情報の獲得も必要となります。また、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、新たな全国的事業の展開などが予想されます。  
そのため、中央競技団体で行われる各種研修会、審判講習会等への府内指導者・役員の参加機会を増加させるなど、府競技団体の組織体制の充実に向け、国や中央の関係団体との連携を促進します。



### 国立スポーツ科学センター (JISS)

日本のスポーツの国際競技力向上を目的に、平成13年東京都に設置されたスポーツ科学・医学・情報研究推進の中核機関。JOC（日本オリンピック委員会）、スポーツ競技団体、大学、スポーツ研究機関等と連携して、日本の国際競技力向上への支援を行っています。各分野の研究者、医師等の専門家集団が、充実した最新施設、器具・機材を活用し、選手のトレーニングを支援しています。



### ナショナルトレーニングセンター (NTC)

日本のトップレベル競技者が国際競技力の総合的な向上を図ることを目的に、平成20年東京都に開設されたトレーニング施設。JOC加盟団体所属の競技選手強化や世界レベルのジュニア競技者育成等を目的として利用されています。

競技別の専用練習場及び宿泊施設から構成され、競技者が同一拠点において集中的・継続的に強化活動を行うことができます。



NTCとJISSは隣接し、それぞれの管理・運営は独立行政法人日本スポーツ振興センター（JSC）が一体的に行っています。これにより、選手や競技団体は、トレーニング施設とスポーツ医学・科学・情報サポートを十分に利活用しながら、高質なトレーニングを実施することができます。

## IV 府民に活力を与える競技スポーツの推進

京都府では、昭和63年の京都国体を契機として地域と競技団体との密接な連携により、「わがまちのスポーツ」として地域に競技が根付き、そこで育ったアスリートが国際大会や全国大会で優秀な成績を収め、本府の競技スポーツを牽引しています。これに続く競技や新たな地域を市町村や競技団体、関係機関等が更なる連携を図って開拓し、府民に活力を与えるスポーツ環境づくりを推進します。

### 1 地域活性化を視点にした地域ならではのスポーツ推進

(1) 地域に根ざし、高い競技力を有する高校運動部を核とした地域スポーツクラブの創設と「マイタウンスポーツづくり」の推進

地域に根付いた競技種目のさらなる充実、発展を目指し、地元高校運動部、総合型地域スポーツクラブ及び地元スポーツ関係団体等が協働することで、新たな強化拠点の創設に努めます。そして、優秀な人材発掘とさらなる競技力向上を図るとともに、各種全国大会やイベントの誘致・開催により地域の活性化を図ります。

- (2) トップアスリートを地域で支援しながら、地域が元気になるシステムづくりの推進  
スポーツは、人々をひとつにまとめる力を持っており、そこから生まれる力は、とても大きいものです。地域ぐるみでトップアスリートをサポートし、そのアスリートの活躍が地域を元気にするというような地域とトップアスリートがともに高め合えるシステムづくりを推進します。
- (3) 地域におけるスポーツを通じた国際交流の促進  
スポーツを通じて、国際交流を重ねることは、国際舞台で活躍するアスリートやグローバルな人材を育成することにつながり、地域の活性化にも有益です。  
そのため、ジュニア強化拠点やタレント発掘・育成事業等を核として中央競技団体や関係団体と連携を図り、海外のアスリートや指導者を京都府に招へいしたり、海外遠征や交流試合を実施するなど国際交流の促進に努めます。

## 2 トップアスリートの持つ技術や経験などの社会的財産の還元

トップアスリートが取り組んできた経験をスポーツ教室、交流会、講演会等において府民に伝えることにより、府民がスポーツの素晴らしさを理解し、「スポーツどころ」を高めることができるようトップアスリートの社会貢献に努めます。